



畑作・野菜・花き生産情報 第6号

令和2年9月18日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

◎共通事項：病害虫防除や、台風・大雨に備えた排水対策を徹底しましょう！
 ◎大豆の生育はおおむね順調です。適期刈取に向け準備を進めましょう！
 ◎小麦は、ほ場の排水対策と土づくり、適期は種で越冬前の生育を確保しましょう！
 ◎ながいもの生育は順調です。にんにくは適期に植え付けましょう！
 ◎秋ギクの生育は順調です。収穫まで適正な温度管理を徹底しましょう！

畑作物

1 大豆

(1) 生育状況

ア 生育はおおむね順調であるが、排水の悪いほ場では生育が劣っているところが見られる。

イ 黒根腐病が見られるが、全般的に病害虫の発生は少ない。

表－1 大豆の生育状況（9月10日現在）

場所	年次	は種期 (月日)	出芽期 (月日)	開花期 (月日)	草丈 (cm)	主茎長 (cm)	葉数 (枚)	分枝数 (本)	稔実莢数 (本)
農林総合 研究所 (黒石市)	本年 (平年差・比)	5/26 (1日遅)	6/3 (2日早)	7/25 (2日早)	95.7 (94%)	51.8 (87%)	14.3 (103%)	2.8 (90%)	37.7 (94%)
	平年	5/25	6/5	7/27	103.2	59.3	13.9	3.1	40.3
	前年	—	—	—	—	—	—	—	—
野菜 研究所 (六戸町)	本年 (平年差・比)	5/15 (±0日)	5/28 (3日遅)	7/27 (1日遅)	122.4 (113%)	75.8 (115%)	—	1.5 (54%)	25.8 (83%)
	平年	5/15	5/25	7/26	108.6	65.9	—	2.8	30.9
	前年	5/15	5/21	7/25	107.1	57.9	—	2.8	25.1
藤崎町 (西中野目)	本年 (平年差・比)	5/30 (4日早)	6/7 (6日早)	7/25 (5日早)	108.1 (120%)	—	14.3 (106%)	—	27.4 (79%)
	平年	6/3	6/13	7/30	90.0	—	13.5	—	34.9
	前年	5/27	6/9	7/26	92.4	—	13.4	—	34.7
五所川原市 (金木町嘉瀬)	本年 (平年差・比)	6/6 (±0日)	6/13 (1日早)	8/3 (3日遅)	79.6 (84%)	—	13.9	—	35.4 (102%)
	平年	6/6	6/14	7/31	95.1	—	—	—	34.6
	前年	6/2	6/11	8/1	85.1	—	—	—	28.6
十和田市 (切田)	本年 (平年差・比)	6/6 (±0日)	6/11 (4日早)	8/3 (1日早)	108.9 (111%)	—	—	—	47.9 (123%)
	平年	6/6	6/15	8/4	97.7	—	—	—	39.1
	前年	6/1	6/8	7/28	90.3	—	—	—	34.0

(注) ①品種は「おおすず」

②平年値は、農林総合研究所が過去14か年(令和元年除く)、野菜研究所が過去13か年、藤崎町が過去9か年、五所川原市が過去10か年、十和田市が過去19か年の平均値。

③野菜研究所の調査日：9月11日。

(2) 収穫等での留意点

- ア 台風や大雨などではほ場に滞水しないよう、明きょなどによる排水対策を徹底する。
- イ 汚粒の原因となる雑草や青立ち株は、収穫前に必ず抜き取る。
- ウ コンバイン収穫では、子実水分が20%以下、茎水分が50%以下に低下した時が適期である。適期収穫に向け、コンバインや乾燥・調製施設の準備を進める。
- エ 土による汚粒の発生を防ぐため、無理に地際まで刈り取らない。

2 小麦

(1) ほ場の準備

- ア 耕起・砕土
出芽・苗立ちの確保や除草剤の効果を高めるため、耕起・砕土は丁寧に行い、砕土率（土塊の大きさ2cm以下）70%以上を確保する。
- イ 土づくり
小麦の生育に適した土壌酸度はpH6.0～7.0である。pH6.0以下では生育が悪くなるので、苦土石灰等で酸度矯正をする。また、リン酸資材の施用は生育を促進し、分けつや稔実をよくするので、土壌中の有効態りん酸は10mg/100gを目標に改良する。有機物や土づくり肥料の施用により地力の向上を図る。
- ウ 排水対策
明きょや弾丸暗きょ、心土破碎などの排水対策を必ず実施する。
- エ 施肥
基肥は、堆肥施用の有無や連作年数あるいは前作を考慮して基準量を増減する。

表－2 土づくり肥料投入量の目安

資材名	投入量(kg/10a)
石灰資材	100～150
ようりん	100～150

表－3 地力条件と施肥量

地力条件	基肥量 (kg/10a)		
	窒素	りん酸	加里
堆肥が施用され地力が高い（野菜跡地等）	5～6	12～15	9～10
堆肥が施用されず地力が並み（基準量）	7～8	12～15	9～10
地力が低い（連作3年以上のほ場など）	9～10	12～15	9～10

(2) 種子の準備

- ア は種時期
越冬前の生育量を確保するため、9月第4～5半旬までに、は種作業を終える。
- イ は種量
ネバリゴシ及びキタカミコムギのドリル播きによるは種量は、津軽地域では8～10kg/10a、県南地域では6～8kg/10aである。は種時期が9月第6半旬以降にずれ込む場合には、2kg/10a程度は種量を増やす。
- ウ 種子消毒
紅色雪腐病の防除のため、薬剤による種子消毒を行う。

表－4 地域及び品種別は種時期・量 (kg/10a)

品 種	ネバリゴシ・キタカミコムギ		ゆきちから		もち姫
	津軽	県南	津軽		県南
は種時期	9/16～25	9/16～25	9/16～25	10/1～20	9/15～25
は種量	8～10	6～8	8	11	6～8

(3) 雑草防除

土壌処理剤の散布は、は種後速やかに行う。また、小麦生育期では雑草の生育が進む前に茎葉処理剤を散布する。

野菜

1 ながいも

(1) 生育状況

ア いも重が平年並から平年を上回っており、生育は順調である。

イ 病害虫は、葉渋病、ナガイモコガの発生が見られる。

表-5 ながいもの生育状況 (9月10日現在)

場 所	年次	植付期 (月日)	萌芽 揃期 (月日)	つる長 (cm)	茎葉重 (g)	つるのネ ット頂到 達日 (月日)	いも長 (cm)	いも重 (g)	いも 最大径 (mm)
野 菜 研究所 (六戸町)	本年 (平年)	5/25 (1日早)	6/25 (4日早)	459.7 (117%)	678.3 (144%)	7/23 (3日遅)	68.8 (107%)	1050.3 (110%)	61.1 (97%)
	平年	5/26	6/29	391.5	470.0	7/20	64.3	956.5	63.2
	前年	5/24	6/24	373.9	444.1	7/22	69.9	1116.2	62.3
五戸町 上市川	本年 (平年)	5/ 5 (8日早)	6/11 (4日早)	— (—)	— (—)	7/10 (2日遅)	75.7 (97%)	1097.7 (112%)	64.6 (106%)
	平年	5/13	6/15	—	—	7/ 8	77.6	981.6	61.0
	前年	5/ 6	6/ 9	—	—	7/ 8	79.7	1135.7	56.8
東北町 野田頭	本年 (平年)	5/14 (±0日)	6/ 7 (1日早)	— (—)	— (—)	7/10 (2日早)	59.1 (91%)	779.7 (102%)	53.9 (103%)
	平年	5/14	6/ 8	—	—	7/12	64.7	760.9	52.2
	前年	5/ 8	5/30	—	—	7/22	62.5	817.3	46.9

(注) ①平年：野菜研は平成19～令和元年の13か年の平均値

五戸町は平成14～令和元年の18か年の平均値

東北町は平成20～令和元年の12か年の平均値

②種子：野菜研は園試系6の2年子(90～110g)ガンク切除

五戸町は庄司系の2年子(120～150g)頂芽切除

東北町は庄司系の1年子(80～120g)頂芽付

③栽植様式：野菜研は畦幅120cm×株間24cm(3,472株/10a)

五戸町は畦幅120cm×株間22cm(3,788株/10a)

東北町は畦幅110cm×株間21cm(4,329株/10a)

④東北町の萌芽揃期は萌芽期の値

(2) 今後の留意点

ア 今後のいも肥大に重要な茎葉を確保するため、病害虫防除に努める。

イ 採種ほ場では、ウイルス病株の抜取りや、媒介するアブラムシ類の防除を徹底する。

ウ 台風などによる強風や大雨に備え、ネットや支柱を補強し、明きよを手直しして排水溝へ接続するなどの対策を徹底する。

エ 植溝が陥没したときは速やかに埋め戻す。

2 にんにく

- (1) 種苗増殖にあたっては、ウイルス感染及びイモグサレセンチュウ汚染拡大防止のため、種苗増殖「専用ほ場」を設置するとともに、JA等から購入した「優良種苗」を植え付ける。
- (2) 植付けは10月上旬までに行い、気象情報を参考に遅れないよう計画的に作業を進める。
- (3) ネギアザミウマ、チューリップサビダニの被害を防ぐため、種球の分割・調製はできるだけ植付け直前に行う。
- (4) イモグサレセンチュウの被害は、強制乾燥終了後50日頃からりん片に現れ始めるので、種球の発根部付近の褐変や腐敗の有無を確認し、発生が懸念される場合は指導機関等の診断を受ける。また、被害種子は絶対に植付けしない。
- (5) 黒腐菌核病やチューリップサビダニ、イモグサレセンチュウの防除のため、種子消毒は必ず実施する。

3 秋冬だいこん

(1) 生育状況

- ア 葉長、根重とも平年を大幅に上回っており、生育は順調である。
- イ 病害虫は、キスジノミハムシの被害が散見される。

表-6 秋冬だいこんの生育状況（9月10日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	葉 長 (cm)	葉 数 (枚)	根 重 (g)
東 北 町 滝沢平	本年 (平年比)	8/ 5 (3日早)	37.8 (124%)	20.5 (149%)	139.0 (206%)
	平年	8/ 8	30.6	13.8	67.5
	前年	8/ 6	34.6	16.0	67.4

- (注) ①平年：平成13年～令和元年の19か年の平均値
 ②品種：夏の翼
 ③栽植様式：畦幅55cm×株間23cm、1条植え（7,905株/10a）

(2) 今後の留意点

- ア キスジノミハムシ、アブラムシ類、コナガなどの発生に注意し、早期に防除する。
- イ 台風や大雨に備え、明きよを手直しして排水溝へ接続するなどの対策を徹底する。

4 秋にんじん

(1) 生育状況

- ア 8月下旬以降の降雨により、根径、根重が平年を下回っており、根部の肥大はやや遅れている。
- イ 病害虫の発生は見られない。

表-7 秋にんじんの生育状況（9月10日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	葉 長 (cm)	葉 数 (枚)	根 長 (cm)	根 径 (mm)	根 重 (g)
平 川 市 大木平	本年 (平年比)	6/20 (±0日)	63.9 (126%)	7.9 (100%)	17.4 (115%)	33.6 (93%)	75.1 (92%)
	平年	6/20	50.9	7.9	15.1	36.0	81.4
	前年	6/21	55.9	8.9	17.0	38.6	95.2

- (注) ①平年：平成9年～令和元年の23か年の平均値
 ②品種：向陽2号

(2) 今後の留意点

- ア 黒葉枯病、ヨトウムシなど病害虫の早期発見・早期防除に努める。
- イ 葉の半数以上が地際部まで垂れ下がった頃に試し掘りを行い、M、L級を中心に収穫する。
- ウ 台風や大雨に備え、明きょを手直しして排水溝へ接続するなどの対策を徹底する。

5 ごぼう

(1) 生育状況

- ア 草丈が平年を上回っており、生育は順調である。
- イ 病害虫は、黒条病、黒斑細菌病、アブラムシ類の発生が散見される。

表－8 ごぼうの生育状況（9月10日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	草 丈 (cm)	葉 数 (枚)
三 沢 市 猫 又	本年 (平年比)	4/24 (5日早)	110.7 (107%)	3.2 (94%)
	平年	4/29	103.6	3.4
	前年	5/ 4	120.4	3.2

(注) ①平年：平成21～令和元年の11か年の平均値
 ②品種：柳川理想

(2) 今後の留意点

- ア 黒条病、黒斑細菌病、アブラムシ類の防除に努める。
- イ 台風や大雨に備え、明きょを手直しして排水溝へ接続するなどの対策を徹底する。

6 夏秋トマト

(1) 生育状況

- ア 11段花房の開花期はおおむね平年並だったが、8月以降の高温により、空洞果や裂果などの障害果が見られる。
- イ 病害虫は、灰色かび病、葉かび病、うどんこ病、タバコガ類、アザミウマ類、コナジラミ類などの発生が見られる。

表－9 トマトの生育状況（9月10日現在）

場 所	年次	定植期 (月日)	7 段花房		9 段花房		11段花房	
			開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)
五所川原市 藻 川	本年 (平年比)	5/ 2 (±0日)	7/ 2 (1日遅)	2.9 (100%)	7/20 (2日遅)	2.8 (112%)	8/ 3 (1日遅)	1.8 (90%)
	平年	5/ 2	7/ 1	2.9	7/18	2.5	8/ 2	2.0
	前年	5/ 3	7/ 2	3.3	7/19	1.5	8/ 3	0.5
三戸町 斗 内	本年 (平年比)	5/11 (4日早)	7/29 (7日遅)	1.9 (83%)	8/15 (4日遅)	3.7 (195%)	9/ 3 (1日遅)	— (—)
	平年	5/15	7/22	2.3	8/11	1.9	9/ 2	1.5
	前年	5/ 7	7/19	3.4	8/ 9	0.9	8/31	2.3

(注) ①平年：五所川原市は平成29～令和元年までの3か年の平均値
 三戸町は平成20～令和元年の12か年の平均値
 ②品種：五所川原市は桃太郎セレクト（台木：Bバリア）、三戸町はりんか409（自根）

(2) 今後の留意点

- ア かん水は、土壌の乾湿が極端に変化しないよう生育を見ながら実施する。ただし、9月下旬以降は、過湿、多窒素で裂果が増えるので、かん水を控え、追肥は中止する。
- イ 最低気温が16℃以下になったら、夜間はハウスを閉めて保温し、果実肥大や着色を促進する。
- ウ 日中は、ハウスを閉めきると内部の湿度が高まり、葉かび病や灰色かび病が発生しやすくなるので、換気と薬剤散布を徹底する。さらに着色始めとなった果房の下葉を2枚残して摘葉し、通気を確保する。
- エ タバコガ類、コナジラミ類等の病害虫の発生に注意し、防除を徹底する。

花 き

1 秋ギク

(1) 生育状況

- ア 生育は、おおむね順調である。
- イ 病害虫は、白さび病、アザミウマ類、ハダニ類、ヤガ類が散見される。

表-10 生育調査（9月10日現在）

場 所	年 次	品 種	定植月日 (月日)	草 丈 (cm)	葉 数 (枚)	備 考
八 戸 市	本 年	精の一世	7/15	76.1	44.9	1本仕立て
	前 年	精の一世	7/18	67.9	35.2	1本仕立て
五所川原市	本 年	神 馬	7/ 2	99.5	52.5	2本仕立て
	平年比		(3日早)	(106%)	(107%)	
	平 年	神 馬	7/ 5	93.6	48.9	2本仕立て
	前 年	神 馬	7/ 4	106.9	54.8	2本仕立て

(注) ①八戸市の平年は昨年から品種が変更となったためなし

②五所川原市の平年値：平成22～令和元年の平均値

(2) 今後の作業

- ア 温度管理
ハウス内の温度は、日中25℃以下、夜間15℃を目標に管理する。
- イ 病害虫の防除
白さび病、灰色かび病の予防散布を定期的に行うほか、アブラムシ類、ヤガ類等の早期発見・早期防除に努める。
- ウ 収穫
収穫適期は3分咲きを目安とするが、出荷先により異なるため、事前に確認する。

2 夏秋ギク

(1) 今後の作業

- ア 日当たりと排水の良いハウスに苗床を作る。親株を伏せ込む2週間前までに、1アール当たり完熟堆肥を250～300kg、窒素、りん酸、カリを成分で0.5～1.0kg、施用する。
- イ 健苗を確保するため、親株には病害虫の被害が無い健全なものを選び、10月下旬までに伏せ込みを行う。

畑作・野菜・花き生産情報第7号は10月20日発行の予定です。

◎ほ場を見回るなど農作物の盗難防止に努めましょう！

◎秋の農作業安全運動展開中（8月15日～10月31日）

- 1 慣れた作業でも油断せず、注意して行いましょう。
- 2 必ず、作業の合間に十分な休憩を取りましょう。
- 3 自分を過信せず、無理のない作業を行いましょう。
- 4 一人での作業は避け、やむを得ず一人で作業を行う場合は、家族に作業場所を伝え、携帯電話を持ちましょう。
- 5 家族や周りの人など、地域全体で注意を呼び掛けましょう。

◎『日本一健康な土づくり運動』展開中 ～元気な作物は健康な土が育みます～
土壌診断に基づいた適正施肥や土壌改良は、施肥コストの低減にもつながります。
緑肥を活用し、作物の生育に好適な土壌環境づくりを心がけましょう！
効率よく堆肥を使い、堆肥の肥料成分を考慮した化学肥料の低減に努めましょう！

◎農薬は適正に使用しましょう。

- 1 使用する際は、必ず最新の登録内容を確認しましょう。
【農薬情報】(http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)
【農薬登録情報提供システム】
詳細検索 → (<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp301.jsp>)
作物名での検索 → (<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp101.jsp>)
- 2 飛散防止に努め、住宅地等の近隣で使用する際は、事前に周囲に知らせましょう。
- 3 クロルピクリン剤など土壌くん煙剤を使用する際は、必ず厚さ0.03mm以上又は難透過性の被覆資材で被覆しましょう。
- 4 市販の除草剤には、農作物等の栽培管理に使用できない「非農耕地専用除草剤」があるので、注意しましょう。
- 5 農薬は使い切りを徹底し、河川等には絶対に捨ててはいけません。

◎食中毒を防ぐため、生産段階から「野菜の衛生管理」に努めましょう。

- 1 栽培に使用する水の衛生管理や水質の確保に努めましょう。
- 2 家畜ふん堆肥は、水分調整や定期的な切り返しを行い、十分発酵させましょう。
家畜ふん中の菌の死滅には、55℃以上の温度が3日以上続いている状態が必要です。
堆肥の製造工程では、この温度条件を確認しましょう。
- 3 家畜ふん堆肥を野菜栽培に使用する際は、製造工程や熟成度を確認しましょう。確認できない場合には、堆肥施用から収穫までの期間を、収穫部位が土壌から離れた野菜は2か月以上、土壌に近い野菜は4か月以上空けましょう。
- 4 農機具や収穫容器等は清潔な状態を保ち、汚水の流入や野生動物の侵入防止等、栽培環境の整備にも努めましょう。

※ 野菜の衛生管理指針、家畜ふん堆肥の生産・利用の注意点はこちら

→ (<http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/sanzen/kachikuhunntaihiseizoukanritennminaoshi.html>)

◎農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを！！

農業保険には、農作物共済、園芸施設共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

- 1 農作物共済、畑作物共済
「農作物共済」は水稻・麦を対象として、「畑作物共済」は大豆・ホップを対象として、災害による収穫量の減少に対する損害を補償します。
- 2 園芸施設共済
「園芸施設共済」はガラス室・プラスチックハウスと附帯施設、施設内農作物を対象として、災害による施設被害と農作物の損害を補償します。
なお、「園芸施設共済」は生産者部会等の集団で加入すると掛金が割引になる等、各種割引メニューがあります。

台風前の6月と降雪前の11月は『災害に強い施設園芸づくり月間』です。
昨年度に比べ、補償金額の引上げや小損害に対する補償が手厚くなりますので、災害に備え「園芸施設共済」に加入しましょう。

3 農業経営収入保険

「農業経営収入保険」は、災害による減収に加え、市場価格の低下など農業者の経営努力では回避できない理由により販売収入が減少した場合も補償の対象になる総合的なセーフティネットです。新型コロナウイルス感染症の影響により、収入が減少した場合も補償の対象となります。（青色申告の実施が要件）

※ 詳しくは、お近くの農業共済組合までお問い合わせください。

連絡先	農産園芸課
	稲作・畑作振興グループ
県庁内線	5073
直通	017-734-9480
	野菜・花き振興グループ
県庁内線	5076
直通	017-734-9481
